

登録コード	HB492200	開講年度	2026					
授業題目	骨軟骨学特論				担当教員	高橋 淳 他		
英文授業名	Bone Cartilage Science				副担当	下平 浩揮・林 正徳・池上 章太・岡本 正則・大場 悠己		
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	
				授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	(授業の達成目標)		
	2026HB4年制初							
	【専攻】医学系や理工学系の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力				⇔	骨軟骨学領域の基礎および臨床研究について、テーマの決め方、研究の進め方（ピットフォールを含めて）、研究の背景及び目的、方法、結果、考察および結論など、論文が書けるようになる。		
(2)詳細/Detailed information	骨軟骨学領域の基礎および臨床研究：テーマ、研究の背景及び目的、方法、結果、考察および結論について、研究の進め方（ピットフォールを含めて）、論文の書き方について概説する。							
(3)授業の概要/Overview of course	軟骨および骨代謝、関節の発生・分化、筋肉を含めた軟部組織の整形外科学、について概説を学ぶ。							
(4)授業計画/Course plan	(オムニバス方式/全15回) (高橋 淳/2回) 骨粗鬆症性脊椎疾患について (大場 悠己/2回) 関節の発生・分化について (下平 浩揮/3回) 骨代謝・軟骨代謝について (林 正徳/3回) 筋肉を含めた軟部組織の整形外科学について (池上 章太/3回) 骨粗鬆症について (岡本 正則/2回) 高齢者脊柱変形について							
(5)成績評価の方法/Grading/evaluation method	自律的な知識獲得を実現する手法について理解できているかを発表資料（3割）、プレゼンテーション（3割）、討論（4割）で成績評価する。							
(6)成績評価の基準/Grading/evaluation criteria	得点法による評価基準は次の通りとする。 90%以上 秀、89～80% 優、79～70% 良、69～60% 可、59%以下 不可							
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容/Notes	英語文献調査後、文章資料・発表資料を英語で作成してもらいます。毎回の講義で、パソコンを用いてレポート（WORD、PPT等）を作成し、メールを用いて提出することが可能な環境を準備すること。							
(8)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	オフィスアワーは毎週変更されうるので、メール等での時間変更の後、居室まで来室のこと。 なお、授業中あるいは授業の直後は直接質問してもらって良いです。なお、開始前は授業準備で時間がとれないことが多いです。							
(9)授業の形式/Course format	パソコンを用いてレポートを作成し、メールを用いて提出することが可能な環境を準備すること。							
【教科書/Textbook(s)】	指定しない。							
【参考書/Reference work(s)】	指定しない。							